

株主の
皆様へ

『開拓者の群像』 (郡山市開成山公園内)

郡山市は、開拓者精神（フロンティアスピリット）が成し遂げた奇跡の街です。明治維新、新しい国づくりが始まり東北開発の先駆けとして選ばれたのが、郡山の「安積野(あさかの)の地」開発でした。郡山は幕末には人口5千人を擁する奥州街道有数の宿場町でしたが、周辺は原野が広がる不毛の地でした。それを開墾するため、猪苗代湖から水を引く安積疏水の開さくが決定し、約2千人余の土族が全国から集い、明治政府の国営事業第1号「安積（あさか）開拓」が動き始めました。安積疏水で水利が拓き、安積開拓により豊かな大地へと変貌しました。そして今、東北地方をリードする人口約34万人の中核市「郡山市」に発展しました。安積開拓に懸けた先人たちの夢は、現在も脈々と市民に受け継がれ、このまの原動力になっています。



第50期第2四半期 株主通信

平成29年 春号

平成28年10月1日から
平成29年3月31日まで

【個人投資家の皆様へ】

詳しくはホームページをご覧ください。



ふくしまから
はじめよう。



東証JASDAQ上市
証券コード
5724

株式会社アサカ理研

Top Message

代表取締役社長 **山田 慶太**



株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに平成29年9月期第2四半期における当社の事業概況、および今後の見通しについてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、堅調な雇用と所得情勢を受け、個人消費は改善に向かう動きが続く状況で推移し、輸出の緩やかな回復により企業収益も回復が見られました。

世界経済は、緩やかに回復に進んでいるものの、金融資本市場の変動や地政学的リスクの高まりなどの影響により、不透明な状況で推移しました。

当社の主要顧客の属する電子部品・デバイス工業分野においては、スマートフォンや自動車向けの需要により堅調な生産動向が続いております。

また、主力製品である金の価格は、一時下落する局面があったものの、地政学的リスクの高まりや円安により平均すると前年と同水準で推移しました。

このような環境の中、当社グループでは、貴金属事業において国内および海外での貴金属取扱量の増加に努めてまいりました。国内における貴金属の取扱量は、前年を上回り、海外子会社においても増加いたしました。

また、環境事業においては、無機薬品および外壁用光触媒の販売量増加に向けた活動を行ってまいりました。

貴金属事業に含めておりますレアメタル・レアアース事業においては、新たに、レアメタルスクラップに含まれるレアメタル回収技術の実証実験を開始いたしました。当社が培ってきた金属の抽出・精製技術を応用して、国内におけるレアメタルのリサイクルが十分になされていない課題を解決し、資源の国内循環に貢献することを目指します。

当社では、引き続き既存事業の強化を進めるとともに、当社のもつ知見をレアメタル・レアアース事業へ有効に活用し、新たな技術開発へ挑戦を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の概況

【当第2四半期連結累計期間は増収減益】

当社の主力事業である貴金属の取扱量が国内・海外とも前年同期比増加し、売上高は4,283百万円（前年同期比9.4%増）となりました。営業利益は、貴金属事業が好調である等の増加要因もありましたが、レアメタルリサイクル実証事業での一過性の研究開発費138百万円を計上したことにより68百万円（前年同期比41.0%減）となりました。経常利益は57百万円（前年同期比45.7%減）。親会社株主に帰属する四半期純利益は、レアメタルリサイクル実証事業での補助金受給による特別利益159百万円の計上により171百万円（前年同期比1.5%減）となりました。なお、レアメタルリサイクル実証事業は今後も注力し、研究開発の成果による売上・利益への貢献は翌連結会計年度以降を予定しております。

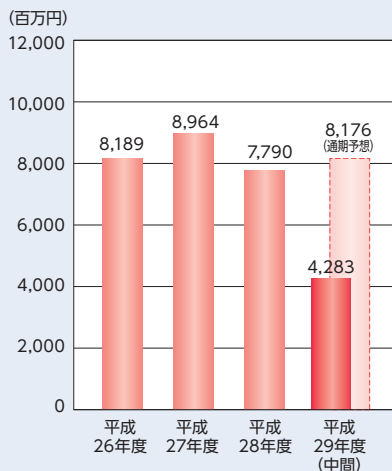
【業績の見通しについて】

当社グループは、貴金属事業において主力製品の金の取扱量の増加に努めてきており、当第2四半期連結累計期間では、計画以上の生産量となりました。また、貴金属相場も計画を上回る水準で推移したこともあり、当第2四半期連結累計期間では、当初の予想に比べて売上・利益ともに上回りました。

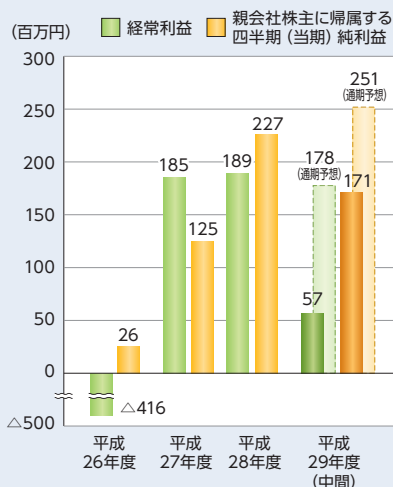
当社グループの主要顧客の属する国内の電子部品・デバイス工業分野の生産は、スマートフォンや車載向け部品の需要により引き続き堅調に推移すると考えております。当社においても主力製品の金の生産量は当第2四半期連結累計期間と同様に推移すると考えられます。

しかしながら、生産量に占める受託加工取引の割合が増加することにより、通期予想では当初予想と比較して売上高は減少する見込みではありますが、利益は当第2四半期連結累計期間の実績を受けて増額いたしました。

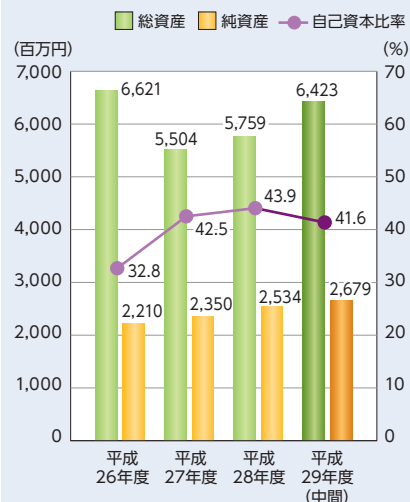
■ 売上高



■ 経常利益、親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



■ 総資産、純資産、自己資本比率



連結財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	当第2四半期末 (平成29年3月31日)	前期末 (平成28年9月30日)		当第2四半期末 (平成29年3月31日)	前期末 (平成28年9月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債	1,968	1,678
現金及び預金	1,657	1,328	固定負債	1,774	1,546
受取手形及び売掛金	435	315	負債合計 ②	3,743	3,225
棚卸資産	776	840	純資産の部		
その他	236	248	株主資本		
固定資産			資本金	504	504
有形固定資産	2,993	2,733	資本剰余金	352	352
無形固定資産	25	23	利益剰余金	1,819	1,685
投資その他の資産	298	270	自己株式	△ 13	△ 13
資産合計 ①	6,423	5,759	その他の包括利益累計額	11	△ 2
			新株予約権	2	2
			非支配株主持分	2	5
			純資産合計	2,679	2,534
			負債純資産合計	6,423	5,759

Point ①

資産合計の増加は、補助金の受給により現金及び預金が329百万円、受取手形及び売掛金が120百万円、レアメタルリサイクル実証事業による建物及び構築物が210百万円それぞれ増加したことによるものです。

Point ②

負債合計の増加は、借入金が増加したことによるものです。

Point ③

レアメタルリサイクル実証事業による補助金を受給したことで、特別利益に159百万円を計上いたしました。

Point ④

主な支出要因は売上債権の増加額が119百万円と特別利益として計上した補助金収入の159百万円です。主な収入要因は税金等調整前四半期純利益の216百万円です。

Point ⑤

主な収入要因は、補助金の受取額の429百万円です。主な支出要因は、有形固定資産の取得による339百万円です。

Point ⑥

主な収入要因は、長期借入れによる収入の850百万円です。主な支出要因は、短期借入金の純減額の258百万円と、長期借入金の返済による88百万円と、配当金の支払額の38百万円です。

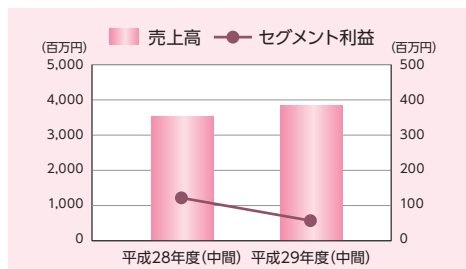
主なセグメントの状況

貴金属事業

主要顧客の属する電子部品・デバイス工業分野の生産は総じて堅調に推移し、当社の貴金属取扱量も増加しました。

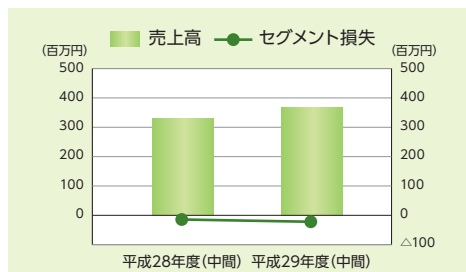
貴金属相場も平均で前年同水準となり、海外子会社での貴金属取扱量も増加したことから、売上高は3,859百万円（前年同期比9.2%増）となりました。

セグメント利益は、レアメタルリサイクル実証事業による全社費用の増加により56百万円（前年同期比49.0%減）となりました。



環境事業

主力製品である銅ペレットの販売数量は前期を上回ったものの、全社費用の増加等により、売上高は367百万円（前年同期比11.4%増）、セグメント損失は19百万円（前年同期は15百万円の損失）となりました。



■ 四半期連結損益計算書 (要約)

(単位：百万円)

	当第2四半期 (平成28年10月1日～ 平成29年3月31日)	前第2四半期 (平成27年10月1日～ 平成28年3月31日)
売上高	4,283	3,915
売上原価	3,473	3,187
売上総利益	810	728
販売費及び一般管理費	742	613
営業利益	68	115
営業外収益	12	24
営業外費用	22	34
経常利益	57	105
特別利益 ③	159	104
特別損失	—	0
税金等調整前四半期純利益	216	209
法人税等合計	47	34
四半期純利益	169	175
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 2	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	171	174

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位：百万円)

	当第2四半期 (平成28年10月1日～ 平成29年3月31日)	前第2四半期 (平成27年10月1日～ 平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー ④	△ 184	16
投資活動によるキャッシュ・フロー ⑤	42	△ 99
財務活動によるキャッシュ・フロー ⑥	432	17
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	290	△ 71
現金及び現金同等物の期首残高	736	639
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,026	567

いわき工場へレアメタルリサイクル実証事業の投資を行いました。

当社は、いわき工場 生産技術開発センター（いわき市泉町黒須野）において、光学ガラスを原料としたレアメタル・レアアース回収の実証実験からスタートし、この知見を元に、平成28年1月よりレアメタルの再資源化および材料販売事業を開始しております。

当第2四半期累計期間において、レアメタル含有スクラップに含まれるレアメタルの新たな回収技術の開発を目的とした投資を行い、その実証実験を開始いたしました。

また、本事業は「平成28年度 福島イノベーション・コースト構想 地域復興実用化開発等促進事業（一次公募）」の採択を受けており、本補助金を活用しつつ、技術開発を推進しております。

レアメタルは電子部品およびハイテク製品、新素材等の成長分野において使われる量が増加していますが、日本国内でのリサイクルが十分になされていない点が課題となっており、これらの産業で発生するスクラップのリサイクルが急務と捉えております。当社が得意とする金属の抽出・精製技術を駆使して、スクラップを資源化し、レアメタル製品へ再生する技術の実証実験を進め、回収率の向上、処理コストの低減効果に加え、環境負荷の軽減を目指してまいります。

レア
メタル

「地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出困難な金属のうち、安定供給の確保が政策的に重要」な非鉄金属（経済産業省による定義）。31 鉱種。

レアアース

31 鉱種あるレアメタルの一種で、17種類の希土類元素の総称。セリウム [Ce]、ランタン [La] など。



Information (平成29年3月31日現在)

会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設立年月日	昭和44年8月25日
資本金	504,295,600円

事業内容

- ①貴金属事業 / 金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理および販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生および販売
- ②環境事業 / 塩化第二鉄液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、水処理事業、光触媒事業
- ③その他の事業 / 自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発および販売、工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

役員

代表取締役社長	山田 慶太
取締役兼執行役員	佐久間良一
取締役	佐久間幸雄
取締役兼執行役員	山田 浩太
取締役(監査等委員長)	野納 敏展
取締役(監査等委員)	熊谷 巧
取締役(監査等委員)	三崎 秀央

(注)取締役(監査等委員)熊谷巧氏および三崎秀央氏は、社外取締役であります。

株式の状況

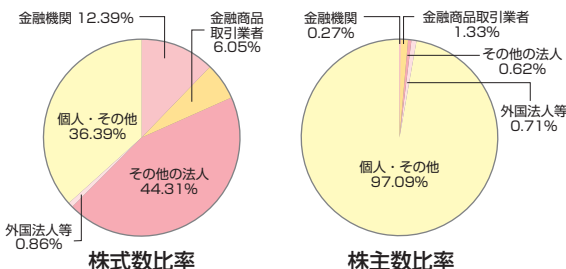
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式24,950株を含む)
株主数	2,265名

大株主の状況

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	711,530	27.93
株式会社M&F	339,500	13.33
株式会社常陽銀行	90,000	3.53
株式会社東邦銀行	81,100	3.18
日本生命保険相互会社	72,500	2.85
第一生命保険株式会社	50,000	1.96
東京中小企業投資育成株式会社	50,000	1.96
白岩 政一	42,100	1.65
株式会社SBI証券	35,200	1.38
アサカ理研社員持株会	25,100	0.99

(注) 当社は自己株式(24,950株)を保有しておりますが、議決権がないため、上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(24,950株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
配当金受領 株主確定日	9月30日 なお、中間配当を実施するときは3月31日
定時株主総会	毎月12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-7111(通話料無料)

特別口座の 口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120-49-7009(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行が口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



猪苗代湖（安積疏水の原水）

『安積疏水』は、水利が悪く不毛の大地だった郡山の安積原野に猪苗代湖から水を引いた大事業でした。
この安積疏水の開さくは明治12年から始まった国直轄の農業水利事業の第一号で、3年の年月を費やし、述べ85万人の労働力を注ぎ込み、総経費40万7千円（現在の貨幣価値に換算すると約400億円）を投じ、明治15年8月、幹線水路の延長52km、分水路78km、トンネル37か所、受益面積が約3千ヘクタールとなって完成しました。この事業に関連した文化財群は平成28年4月文化庁「日本遺産（Japan Heritage）」に認定されました。

福島の旅が丸わかり!!

うつくしま観光プロモーション推進機構（公益財団法人福島県観光物産交流協会 内）
〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号（コラッセふくしま7階）
TEL：024-525-4024 FAX：024-525-4087